

住民の願い裏切る阿寒病院の25年4月からの民営化方針

地域あげての運動でなんとしても撤回させよう

こんなひどい話はない

阿寒病院の民営化をめぐる、信じられないようなことが次々起きています。



民営化を水面下で進めた地元議員

昨年8月以来、実は水面下で民営化の検討が進んでいました。その中には、阿寒町の複数の市議や鶴の園の常務理事も入っていました。

「改革プラン」が未達成と言いつつ増収策は、いっさい手つかず

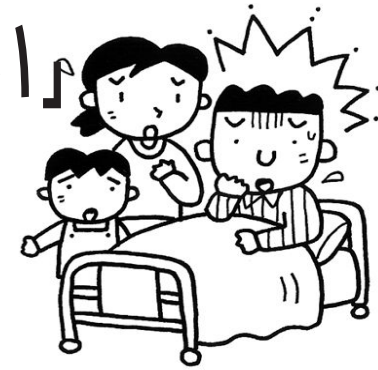
病院の改革プランが失敗したので民営化と言いますが、増収策はほとんど取り組まれていません。増収の検討や会議の資料も全くないのです。議会で資料提出を求められても提出できず。医療スタッフが自分達で独自に増収策を提案しても、一切無視してきたのです。

医療スタッフに「対案を示せ」と

言いながら、一方的に民営化答弁。民営化の方向が強まる中、医療スタッフは「市立のままで運営してほしい」と強く迫りました。それなら、「自分達で市立のままで改革案をつくれ」と院内の検討チームをつくらせました。この検討が始まった矢先に、市長が一方的に「民営化する」と議会で答弁したのです。職員に対案を示せと指示したのは「だまし討ち」でした。

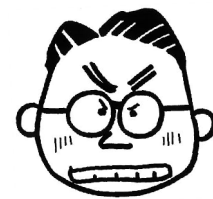
民営化しても三慈会には行かないとの医師たちの考えを無視して

民営化の話が出て以来、二人のお医者さんはずっと反対です。三慈会は、民営化後も医師には残ってもらおうと考えていたのですから慌てました。三慈会は、このままでは医師を配置できないと、先生方に翻意を促そうと試みますが、会うことも拒否されました。それだけ二人の先生の気持ちは固いものでした。結果として、4月からの民営化では医師を確保できなくなりました。25年4月からの民営化と一年先延ばししたのです。



12月議会で市長は、「阿寒病院は20床の介護療養病床を維持することとし、今後の医師配置と財政負担を考えて、25年4月からの民営化を探ることにした」と答弁しました。共産党議員団は、「民営化ではなく、住民が安心できる市の直営で存続させるべき」と民営化方針の撤回を要求、あわせてこの間の強引な進め方を批判しました。

あげくの果てにセンター長はウソの答弁謝罪と訂正へ



お医者さんと三慈会のやり取りを一番よく知っているのは阿寒町行政センター長です。それなのに本会議で、「三慈会は先生方と独自に協議している」と答弁したのです。一度も会っていないのに、「協議」とは明らかにウソの答弁です。委員会で厳しく追及され、センター長は訂正しました。迷惑をかけた先生にも謝罪することになりました。



村上かずしげ通信

発行 日本共産党釧路市議団 23-5212 2011/12/25

この通信は政務調査費で作成しました。